

愛川町教育委員会

平成21年10月26日

愛川町教育委員会10月定例会会議録

- 1 会議日程 平成21年10月26日(月)
午後2時00分から午後3時10分
- 2 会議場所 愛川町役場2階201会議室
- 3 議事日程 日程第1 会期の決定について
日程第2 前回会議録の承認について
日程第3 教育長報告事項について
 (1) 教育長報告事項
 (2) 全国学力学習状況調査について
日程第4 その他
 (1) 立志式について
 (2) ふるさとまつり(文化展・文化芸能発表会)について
- 4 出席委員 教育委員長 足立原 威
委員長職務代理者 岡本 弘之
教育委員 八木 一郎
教育委員 三好 容子
教育長 熊坂 直美
- 5 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者
教育次長 伊 従 正 博
教育総務課長 河 内 健 二
生涯学習課長 長 嶋 忠 雄
スポーツ・文化振興課長 大八木 尚 一
指導室指導主事 高 山 真 一
教育総務課副主幹 佐 藤 貴
-

◎開会

○（足立原委員長） 皆さん、こんにちは。

ただいまから定例教育委員会を開催いたしますけれども、この教育委員会は、法律の定めにより、教育委員会は委員長及び在任委員の過半数が出席しなければ、会議を開き議決をすることができないとされております。

ただいまの出席委員は5人であります。定足数に達しておりますので、10月愛川町教育委員会定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

それでは、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでありますからご承知願います。

これより日程に入ります。

◎日程第1

○（足立原委員長） 日程第1、会期の決定についてを議題といたします。

本定例会の会期であります。本日1日と定めたいと思っておりますけれども、ご異議ありませんでしょうか。

（「異議ありません」と呼ぶ者あり）

○（足立原委員長） 異議なしということでございますので、これを認めます。

よって、本定例会の会期は本日1日と決定いたしました。

◎日程第2

○（足立原委員長） 次に、日程第2、前回会議録の承認についてを議題といたします。

会議録については、既に配付のとおりであります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○（足立原委員長） ご異議ないものと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより表決に入ります。

日程第2、前回会議録の承認についての採決をいたします。

本案を原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

- (足立原委員長) ご異議ないものと認めます。

よって、日程第2、前回会議録の承認については原案のとおり承認されました。

なお、定例会終了後に会議録署名原本をお回しいたしますので、委員の方は署名をお願いいたします。

◎日程第3

- (足立原委員長) 次に日程第3、教育長報告事項についてを議題といたします。

日程第3、教育長報告事項についての(1)教育長報告事項の説明をお願いいたします。

——教育長より詳細について説明——

- (足立原委員長) どうも説明ありがとうございました。

これより質疑に入ります。

日程第3、(1)教育長報告事項について、何かお聞きしたいところがございましたらお願いいたします。

三好委員。

- (三好委員) 三好です。

10月5日ですけれども、「私立幼稚園協会予算要望」という項目がありますが、幼保一貫教育とか、幼保の連携とか、幼稚園に保育内容を導入してお母さん方の延長保育の要望にこたえとか、そういう内容の推進がいろいろ出てきているんですけれども、愛川町の今の現状というのはどのようになっていますでしょうか。

- (足立原委員長) 教育長。

- (熊坂教育長) この要望の中身は、愛川町の幼稚園も4園あるわけですが、私立幼稚園が加盟しております厚木地区私立幼稚園協会というところで毎年予算要望が出てまいります。主には就園奨励費だとか、幼稚園の学級費のことだとか、そういう内容が出てくるわけですが、愛川町の場合は、ご存じのように保育園が公立、幼稚園は私立という関係で、余り愛川町では一緒にどうという話は出てこないわけですが、この中でも、幼稚園協会のほうとしては、認定子ども園というふうな国の動きもありますので、延長保育を必要に応じて受け入れているところがあるようでございます。この辺、これからも続けていきたいというような話はございました。

以上でございます。

○（三好委員） ありがとうございます。

○（足立原委員長） よろしいでしょうか。どうぞ。

○（三好委員） 待機児童の問題とかそういうのもありますので、幼稚園にそういう内容のものを入れるために、何年か前に300万の補助金を出すからやりましょうとか、そんな話もあったように聞いているんですが、それ以降は、そんなに愛川町では進んでいないということですか。

○（足立原委員長） 教育長。

○（熊坂教育長） その補助金を出してというところは、今、話には上がってきてはおりません。6つある保育園のほうでも、延長保育というようなことをかなり考えておりますので、町としてはそのような対応で進むんじゃないかと思えます。

○（三好委員） ありがとうございます。

○（足立原委員長） ほかにいかがでしょうか。

○（三好委員） 続いて、三好です。

○（足立原委員長） 三好委員。

○（三好委員） 三好です。11日のスポーツレクリエーションフェスティバルに参加させていただきました。委員長さんも一緒でしたが、町がお金を出して、ポイントポイントに、いい内容とか、そういう言い方をしちゃうと申し訳ないんですけども、何か充実できるような内容を取り入れてくださっているの、こういうこともできるのかとか、こんな道具を使うとこういうふうになるのかとか、そういうところを体験させていただいたので、とても楽しめました。

それで、3000人以上参加したという報告もありましたけれども、町民の方々が、お天気もよかったから参加できたのかなと思うんですが、大勢の方が参加できるように、自分の体のことも含めて健康に気をつけるいいチャンスになると思えますので、参加されるといいかなと思えました。楽しませていただきました。

○（足立原委員長） はい。どうぞ。

○（熊坂教育長） 大八木課長、その辺のところをもうちょっと詳しく何か話ができれば。参加人数とか、景品のこととか。

○（足立原委員長） 大八木課長。

○（大八木スポーツ・文化振興課長） スポーツ・文化振興課長です。

今のスポレクのことをありがとうございます。

スポレクにつきましては手づくりということで、隔年でやっております体育大会、あれは行政区対抗ということでちょっとニュアンスが違うものでございますので、各体育協会の皆さんが一生懸命、自分の実際やっているものと違うようなものをいっぱいやっていましたので、すごく有意義にできたと思います。

参加人数につきましては、新聞報道では3,000人ということだったんですけども、実は、一昨年、私ここにいませんでしたのではっきりわからなかったんですけども、実行委員長が体育協会の会長ですから、会長に聞きましたらば、前回の倍ぐらい来たんじゃないかということで、変な話、前回の公表が3,000人なんですけれども、実質、事務局によると4,500人ぐらいということだったんで、事務局のほうで各ブースで参加した人の人数を集めたところ、それで5,000人っているんですよ。ですから、私個人的には7,000人ぐらいっているのかなとは思いますが。前回は4,500人ということで内部で調整していますので、私のほうはそのようなことで思っています。

ですから、今、こういう大会が、隔年でいいのか毎年やったほうがいいのか、それはいろいろ全体、町の事業の関係がございまして、もう少し研究させていただいて、より多くの人たちが楽しめるようなイベントができればいいのかなと、そのように考えております。

以上でございます。

○（足立原委員長） ありがとうございます。

スポーツフェスティバル関係について、いろいろご意見、ご質問がございましたが、そのほかにございませんでしょうか。

○（八木委員） 一つ、よろしいですか。

○（足立原委員長） はい、どうぞ。

○（八木委員） 教育長報告事項の中になんていってないことなんですけども、実は、この前、厚木のほうの関係で、厚木市の人に、今、横内謙介の扉座というのが厚木の文化会館の事業としてやっています、かなり厚木市近郊の小学校や中学校を回って、いわゆる演劇のワークショップ、そういうことをやりながら、子供たちに情操教育をやるんだということで、かなり張り切ってやっている方がいらっしゃるんですが、その方が、この間、愛川町でも教育長にお会いして、何か2校ぐらい、それをどこかで入れてもらうようなお話をしてきたという話を、私ちょっと聞いたんですよ。予算的には、何か今の国のほうの特例がありまして、お金はかからないのでできるんだよということで、ああ、そうですかという話をちょっと聞いてきたんですが、

その辺、何かありますでしょうか。

○（足立原委員長） 教育長。

○（熊坂教育長） 実は、10月に入りましてから、厚木愛甲地区ということでそのような文化の催し物を、県から、交付金でしょうか、委託金を受けて実施をする計画が進んでいますと。ついでに、愛川町の小学校でワークショップをやる希望があったら申し出てほしいということがありまして、6校に投げかけをいたしまして、最終的には1校どこか決まったのではないかと思います。担当指導主事のほうで調整をしておりましたので。

ですから、内容としては、そのワークショップと、もう一つ、演劇鑑賞があったんですね。ところが、演劇鑑賞のほうは希望はあったんですけども、もうスケジュールがちょっと無理とかということで、そちらはできない状態でした。

今後、受けました学校の日程調整、内容調整をして、参加をするというような状況でございます。

なお、付け加えになるんですが、新採用の教員の研修でも、自分たちの表現能力を高めようということで、そのワークショップを取り入れて、今年も行いましたが、実施をしております。

以上でございます。

○（足立原委員長） はい、ありがとうございます。

○（岡本委員） ちょっといいですか。

○（足立原委員長） はい、どうぞ。

○（岡本委員） 私も聞いたんですけども、私が聞いたころは、もう中津も愛川も2校ぐらい受け入れるような方向で動いているようですよなんていうことは聞いたうわさは、今、もう既に演劇もやっていますよね。新聞に、この間も厚木市のどこかの小学校がもうやっていましたね。記事になっていましたから。

そういう私劇団でしょうけれども、文化的な活動ということについては、行事が学校、たくさんあるかと思うんですけども、機会を捉えて積極的に入れていくのもいいんじゃないかなという思いもします。現場は行事がたくさんあるから、これ以上また新しい行事をふやすのとはいう雰囲気もあるかもしれませんが、やっぱりそういうものはどんどん積極的に入れて、文化的な活動としてやるのはいい方向じゃないかなというふうには思います。

来年以降も続くと思いますので、その辺のところを前向きに検討していただければなどは、個人的に思います。

○（足立原委員長） ほかにいかがでしょうか。

私のほうからちょっとあるんですけれども、先ほど幼稚園の要望があったというお話がありましたけれども、指導主事のほうにちょっとお伺いしたいんですが、私立ですから、町としての教育面の指導というのは入らないわけなんです、一応幼稚園として、私立が4園ですか、あるんですが、そういうところへの幼稚園の指導要領、そういうものの指導計画、そういうものを参考までにでも、どうなっているのか委員会として把握していますか。

どうぞ。

○（高山指導室指導主事） そのあたりにつきましては、すべての園ではないですけれども、どんなような形で指導要領が作成され小学校に渡っているのかどうかということは何園かに確認はさせていただいているところでございます。

幼稚園ですけれども、情報だけでなく、指導要領をしっかりと作成して小学校に上げて、いい形で連携して、今後とも小学校の指導に役立ててもらいたいということを幼稚園のほうにもお話をしております。

それから、今年度新たに、幼稚園、保育園、小学校の連携の会議というものも教育委員会サイドできちんと設けることにいたしましたので、そこでも要領のことをきちんと確認していこうと考えております。

○（足立原委員長） わかりました。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。教育長説明事項について、何かございますでしょうか。

それでは、質疑がありませんので、質疑を終結したいと思います。

それでは、日程第3の（1）教育長報告事項については、教育長報告のとおりご承認願います。

次に（2）全国学力学習状況調査についての説明をお願いいたします。

教育長。

○（熊坂教育長） この内容につきましては、前回も若干触れてはありますが、今回、子供たちの質問用紙等の結果をまとめをいたしております。その辺の分析等も、指導主事あるいは学校の教務の先生ともいたしたりしておりますので、その辺につきまして、詳細を指導主事のほうからご説明申し上げますのでよろしくお願ひしたいと思います。

○（足立原委員長） 高山指導主事。

○（高山指導室指導主事） 指導主事です。

それでは、資料2をご覧ください。全国学力・学習状況調査の町の結果としてまとめさせ

ていただいております。

1番、各教科の概要といたしまして、小学校の国語、算数、中学校の国語、数学というような形で、◇については「国より良い状況と考えられる内容」、◆は「指導・改善が必要と考えられる内容」ということでまとめてあります。個々については、後ほどご覧いただければと思います。

2ページ目の2番、児童質問紙・生徒質問紙調査結果につきましては、子供たちがその質問紙に答えた調査結果を本町のデータと国のデータと比較したものをまとめてあります。家庭での生活・学習についての1番ですけれども、朝食を毎日食べているかどうか。食べていると答えている本町の小学生85.8%、国が88.5%と、3%ほど低くなっております。中学校が73%ということで、9%低くなっているという現状があります。また、7時より前に起きているかどうかということでは、小学生が77%、中学生が82.5%となっております。中学生は、比較的早起きであるということが言えます。

3ページです。ふだん何時ごろ寝ますかというデータでは、今年度のデータでいきますと小学生が82.7%、中学生が35.3%ということで、小学生については早く寝る傾向にあります。

12番です。ふだん1日当たりどれくらいの時間、テレビ・ビデオ・DVDを見たり聞いたりしていますかについては、3時間以上視聴していると答えた割合が去年は非常に数値が高かった訳ですが、若干減りまして、小学校45.2%、中学校は41.7%となっておりますが、まだまだ高い数値であります。それから、13、14、15ですが、テレビゲームを2時間以上している、またインターネットを2時間以上している、また携帯電話の通話やメールをしているという数字を見ても、非常に国のデータから比べるとかなり高くなっています。特に携帯電話の通話やメールについては、小学校で39.8%、中学校は79%ということで、全国よりも中学校は20%以上高くなっており、学習以外でいろいろ時間が使われており、危機感を持っているところでございます。

4ページです。携帯の所持率につきましては、小学校で38.5%、中学校は84%というふうには、こちらも非常に高くなっております。

学習時間についてですが、1日どれくらい勉強、家庭学習をしているかということですが、1時間以下と答えている小学生が64.1%、中学生が43.5%、または全くやってないという子供たちが小学校で8.9%、中学校で16%となっております。

次の5ページになりますが、土・日の学習時間におきましても、1時間以下、または全くやってないという数字は非常に高くなっています。

6ページにまいります。宿題をしているかという質問に、こちらの数字につきましても、全国に比べて若干低くなっているというところです。また、予習については、中学校については、この3年間高いんですが、小学校については低くなっております。復習についても、小学校のほうでは全国に比べて10%ほど低くなっております。

あと、国語、算数・数学についてというところで、7ページ、8ページについては、後ほどご覧いただければと思っております。

9ページ、学校質問紙調査結果ですが、これは校長先生が答えたものの集計になっております。25、27の放課後を利用した補充的なサポートであるとか、長期休業期間を利用した補充的学習サポートについての割合が、昨年よりは少し上がっておりますが、まだまだ充実させていく必要があると考えております。また、32番の学習方法に関する指導について「よく行った」と答えている回答が少なかったですね。小学校についてはかなり進んでおりますが、中学校については、「行った」と答えてはいるんですが、「よく行った」とは、答えておりません。

また、コンピューター等を使う学習活動を行っているかという数字についても、昨年と比べると若干上がってはいますが、まだまだ足りないところがあり、学校のほうに要請をする予定でおります。10ページの点についても同じでございます。

また、77・74について、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っておりますか、で、「よく行った」と答えている数字が、若干低くなっております。「行った」と答えている学校は多いんですけども、「よく働きかけを家庭に行った」となると少し数字が下がっておりますので、こちらについても学校に働きかけを行ってまいります。

また、11ページです。「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか」については、こちらについても「よく行った」となると、数字が下がっております。こちらについても、今後、しっかり学校内で共通理解を図って、家庭学習についての進め方、与え方についてはよく話し合ってもらいたいというふうに働きかけを行ってまいります。

その下にあります模擬授業であるとか事例研究については、全国に比べても、よく行っております。先生方も忙しいですが、研修も多く行っており、これからはその中身について精選しながら、より子供の実態に合った研修にご努力いただくようお願いするところでございます。

12ページです。質問紙調査クロス集計でございますけれども、質問紙の結果と教科学習状

況の正答率とのかかわりですが、こちらについては全国と同じような傾向です。例えば、朝食を毎日食べていれば、児童生徒の正答率は高いであるとか、持ち物の準備だとか、基本的に生活習慣がきちんと身につけている児童生徒については正答率が高いというデータが出ております。

13ページです。考察ですが、教科については5点です。本町については、国語・算数・数学の活用問題については、国と比較して、知識に課題があり、国語については読み取りの力が弱い傾向がでています。学習面・生活面については、例えば、先ほども話しましたが、テレビ・ビデオ・DVDの視聴時間は少なくなりましたが、ほかのテレビゲーム、インターネット、携帯電話の通話やメールを長時間行っている児童が多いということ、特に小学校で長時間行われているということがあります。これが、非常に家庭学習の時間に深くかかわっており、懸念されるところでございます。

14ページ、学校質問紙については4点、先ほど説明したところでございます。6番の見える課題についても4点載せさせていただきました。

そして最後ですが、15ページです。先週、教務の先生方に集まっていた中で、学校としてどう取り組んだらいいのか、教育委員会として、どう取り組んだらいいのかとの話し合いを設けました。そこで、学校の取り組みとしては2点、よりよい授業を目指すための授業改善に取り組んでいこうということで、授業力向上に向けた校内研修会の実施、また、町の授業力アップサポートの活用、あと、児童・生徒による授業力アンケートの活用などに、取り組んでいくということ。また、2点目としましては、家庭と連携し、生活態度の改善であるとか、学習意欲の向上に取り組んでいこうということで、小学校の低学年や中学校1年の最初の時期に、授業の受け方であるとか生活の過ごし方等、ルールを徹底する必要がある、学年に任せるのではなくて、学校全体で取り組む必要があるということを確認いたしました。

教育委員会の取り組みといたしましては、「あいかわ子育ていきいき宣言」を全家庭に配布し、家庭生活をしっかりと見直してもらえるように啓発していく、また、2点目といたしましては、教師の指導力、授業力の向上に向け、研修事業の内容、方法等の改善・充実を図っていくということ。3点目、各学校の校内研修会に訪問し、授業力向上等の指導・助言を行うこと。4点目といたしましては、教師の意識改革、学校の主体的な取り組みを支援すること。この点を押さえております。

以上です。

○（足立原委員長） 説明ありがとうございました。

これより、ただいまの説明に対するの質疑に入ります。

日程第3、(2)全国学力学習状況調査についてお聞きしたいところがありましたらお願いいたします。

- (岡本委員) よろしいでしょうか。
- (足立原委員長) はい、岡本委員。
- (岡本委員) 聞きそびれたかもしれないですけども、9ページの学校質問紙調査結果、これは校長先生がお答えになったんですか。
- (高山指導室指導主事) はい。
- (岡本委員) 校長先生が。
- (熊坂教育長) 1人だけですね。ですから、先生方のアンケートを集めて、まとめて書いたものではなくて、校長の感覚だけで書いています。
- (岡本委員) 校長先生がお書きになったものですね。
- (熊坂教育長) はい、そういうことです。
- (岡本委員) 1人というのは、どういうことですか。
- (熊坂教育長) ですから、自分の学校の様子を見て、普通ですと、自分の学校の様子をまとめて先生方からも調査をして書くという形をとる場合もあるんですけども、これは、そうではなくて、質問用紙を見ながら、校長先生がそのときにこういう思いだということ書かれております。
- (岡本委員) よくわかんないんですけども、最後のまとめのところを見ると、質問紙調査クロス集計がございますね、12ページ。そこを見ると、上から3行目、「家で学校の宿題予習復習をしている」と回答した児童生徒の正答率が高いとか、それから13ページに行って、「家で苦手な教科の勉強をしている」と回答した生徒の正答率が高いとか、要するに自宅で何らかの学習をした生徒の正答率が高いということがずっといっぱい書いてあるんですね。
ところが、9ページに戻ってみると、校長先生が1人でやられたということですけども、32番、33番、それから80番ですか、それから81番、みんな0%なんですけれども。何ですか、この0%。
- (足立原委員長) 教育長。
- (熊坂教育長) 後ろの考察のほうでまとめてありますクロス集計は、前のほうに子供自身が、自分はふだん勉強している、してないという、それが質問用紙にありますね。その答えた子供のテスト結果を、それをつなげて書いております。

ですから、ここにあるのが何%かというのは、ここには出てきていないわけですね。ですから、高い子についてはこちらも高いという、そういう相関関係を示しておりますので、校長のほうのアンケートで余りやってないということになると、やってない子が多いということが言えるかと思います。本当はその辺のところをこれから指導を積み重ねていかないと結果には反映ができないだろうと、そういう捉えが、我々は、そういうところを分析しております。

○（岡本委員） それでいいんですけども、校長先生がどういうご意図でお考えになったか、0%ではわかんないですね。全くやらないということですか。

○（足立原委員長） 教育長。

○（熊坂教育長） 高山さんのほうで言ってくれますか。

○（高山指導室指導主事） 私のほうでちょっと言葉が足らなかったかもしれないんですが、例えば先ほどの10ページの77・74なんですけど、「行った」学校は、100%です。ただ、「よく行った」となると、この数字になります。

選択肢が、「よく行った」、「行った」、「余り行われてない」、「全く行われてない」という、その4つの選択から選んでおります。

○（岡本委員） だから、やっているなら、行ったぐらいはせめて丸がつくはずですよ。

○（高山指導室指導主事） そうですね。行ったとはなっているんです。

○（岡本委員） それを0%ということは、やってないことでしょうか。

○（高山指導室指導主事） いや、「よく行った」と書いている……。

○（岡本委員） わかんない。

じゃ、これは「よく行った」の数字しか載せないということですか。

○（高山指導室指導主事） そうですね。ここでは、「よく行った」としての数字しか載せてないということです。

○（岡本委員） 変なアンケートですね。「行った」というのを載せるべきですね。

○（熊坂教育長） 集計の中には、4段階あります。ただ、気になる項目として、「よく」が全国に比べて少ないということでここへ取り出してありますので。「よく」がつかない、やっているということは、どこの学校もありますので。そこへいくと100が出てまいります。ただ、全国に比べて「よく」が少ないということは、もっとやらなきゃいけないだろうという意味合いがありますので、その数字だけをここへ取り上げてあります。

○（足立原委員長） 八木委員。

○（八木委員） 関連ですが、私もこれを見たとき、そう思いました。ということは、やっぱり校長さんの立場で、単なる機械的に「よく」とか「よくない」の、そんなニュアンスじゃなくて、これだけ悪い結果が出ているわけですから、この質問の様式から見れば、ゼロとは書けないはずだと私は思うんです、逆に。

それで、後ろにずっと行くと、例えば92・89とか、今度はこれは学校教育の中身に入りますが、授業研修とか校内研修は、全国から比べて倍以上やっている回答が出ているわけです。裏を返せば、やっぱり研修とか何かというのはその時、表面的なことで、当事者は動いてれば何か自分がやったような気がする。それで、現実的にきめの細かい、まさにさっきゼロ%になっているような学習方法のこととか、具体的に個々の子供たちと接してないじゃんかということをおっしゃっている、そのままの数字だと私はとれますよね。

それが、確かにおっしゃるような表現の仕方でわかりますが、全体の流れとして、やっぱりその辺に問題があるんじゃないですか。と思いました。

校長さんが、全部、ああ、そうだと、ゼロで書くということ自体が理解できない、私はそう思います。

○（足立原委員長） 高山指導主事、何かございますか。

○（高山指導室指導主事） これは校長先生の主観で書かれたものですので。

○（足立原委員長） 教育長。

○（熊坂教育長） 少しお話をさせていただきたいんですが、そういうように形としてはやっているということが、ある意味では言えるわけですが、それが定着をしてないと、そういうことを調べていくと、一体何に原因があるのか、そういうことを考えていくのが一番大事なことだろうというふうに思っております。

その辺で関係してくるのは、先ほどの例の携帯電話の関係だとかそういう部分で、学校では指導しているけれども、やっているのが家庭へ帰っての表面的、中には宿題が出たらやるけれども、ほかのことは自分で勉強方法が余りきつとわからないのかもしれない。だからできないとか、いろんな原因があると思うんですね。ですから、学校の事業改善は当然しなきゃいけないわけですが、それに合わせて家庭でどうしていくかということを実際に考えていかなければいけないということを思っております。

これは、数年前思ったことなんですが、子供がやっぱりテストになっても大事だと感じているかどうか疑問になったことがあるんですね。というのは、私、小学校に勤めていたときに、中学1年生になった子が、平日の午後、実は学校へ遊びに来たんですね。で、なぜ

だろうと思って聞いたら、今日はテストの期間中で、午後授業がないと。本来なら、テストがまだ明日あるわけですから、うちへ帰って真剣に勉強しなきゃいけないという、そういう自覚があってもいいはずなんです。ところが、そうでなくて、時間があるから、まずのんびりしたいんだと、そういうような話でした。ですから、そういうところの意識の改革をしていかないといけないのかなと。また、親もその辺が、本当にそういうところまで踏み込んで考えているのか、あるいは全く放任になっているのか、そういうところも本来は気になるところで、調べていかなければいけないのかなと。

テレビを減らそうというときに、7月に母親委員さんの代表と、各学校1人ずつおられますので、9人の方といろいろ話したときに、テレビの話をしました。そうしたら、お父さんを我慢させるのができるかしらねという。ですから、よくよくたどってみると、ちょうど小学校のお父さんの年代というのは30の後半から40代ですね。そうすると、テレビが全盛期で入り出して、どこの家庭でも小さい子供からテレビを見出している段階です。そうすると、父親が勉強のことをよく考えて、やめてくれればいいんですけども、なかなかやめられないんじゃないかというお話がありました。

事実、高峰小学校は、ノーテレビデーをやるときに、アンケートを始めてからとったときに、親がやめられないという答えがあるんですね。ですから、学力のことを中心に子供の家庭生活、いろんなことを考えていくと、そういうところもやっぱり働きかけをしていかないと、ただただ点数をとるところへ目が行ってしまっただけでは、将来、子供が大人になったときに、やはりその習慣がないと、子育てのときにそういうことが受け継がれていませんね。そうすると、ますます子供は余り勉強ということを意識しなくなったり、将来の自分のことを考えるのがちょっと心配をしております。

ですから、その辺を真剣にこれから考えていきたいなと。これは、この間の教務さんの会議でもその辺のところをお話ししまして、学校として家庭へ何を働きかけなきゃいけないか。ただ、勉強、宿題をやりなさいというので出すだけではなくて、方法論もしっかり教えなきゃいけないだろう。あるいは、家庭に参考になる図書類があるのか、ないのか。ひょっとすると辞書やそういうものがそろってない家庭もあるのか、そんな心配さえするんですね。ですから、そういう子供を取り巻く教育環境というものをもうちょっと深く、広く見ていかないといけないのかなと、そういう深刻さを私は感じております。

○（八木委員） ちょっといいですか。

今、教育長のおっしゃったことはよくわかるんですよ。だから、今の家庭というのは、ほ

とんど今おっしゃったとおりの家庭が多いんですよ。だからこそ、学校でリードしてね。これ、私、この0%というのは、今説明聞いてわかったんですけども、よく行ってということで。でも、少なくとも校長先生がゼロ%なんて、全くやってないということでしょう。ところが、こちらの考察では、家に帰って何らかのことをやっている子はちゃんと答えているというのが出ているわけです。だから、学校で今、教育長がおっしゃったとおり、もっともっとやらないといけないんですよ。それを平気で校長先生が0%なんて書かれては、ちょっとわかんないですね、僕は。

○（足立原委員長） 三好委員。

○（三好委員） 三好です。

今、いろいろな話しがでていますが、体制ということでは驚いてはいるんですが、昔の担任の仕事を思いおこしてみると、家庭訪問という期間があつて、1年に1回は必ず家庭に訪問をして、そこのご両親または祖父母、兄弟に会って話をし、その家庭の状況であるとか環境であるとか、それこそ教育的な環境、そういうものもつぶさに見て、その成果をきちんと自分なりに指導にあらわしていたという、そんなふうなことができたように思うんですが、今、教務主任さんのお話が出たり、学校全体がもっとやらなくちゃいけないという、そういう大筋の動き、方向性というのは簡単に言えるんですが、先生方の教育的な姿勢の中に、個々に向き合うという、そういう内容がどれぐらいできているのかなということをしごく、今感じています。携帯電話にしろ、朝、御飯を食べてくるかこないにしろ、申しわけないけれども、担任がそれぐらいの把握は、全部、自分の闇魔帳に記入してキャッチしていたものなんですね、昔は。それが、やはりアンケートをとらなければわからないとか、そんなふうになってきていることがそもそもおかしいのかなという気がするんですよ。

だから、担任というのはどこまでかという、その線引きをとかくしがちなんだけど、自分が担任した子供のことをよりよく知っていこうというその姿勢が教育者に残っていなければおかしいかなと思うんですね。

今は、個人情報いろいろなことがあつて、家庭環境調査票の中に細かく書けないという、そんなふうなところがあつたり、それから学級の連絡網をつくるのに抵抗があつたりとか、いろいろありますよね。でも、何を第一に考えるかといったら、子供の安心・安全を確保するために親の連携が必要だとなぜ学校が言えないのかなと思うんですよ。プライバシーを守るということも重要だけれども、子供の安心・安全のためにどうするか、その議論をきっちりやれば、理解というものは得られると思うんですね。

最近のやり方では携帯メールで一斉発信とかそんなようなこともありますけれども、基本的な人と人がかかっている中の重要性というもの、何が重要であるかということのを再認識した上で、担任の先生が子供たちに向き合うという、生身の精神で向き合っているわけですから、その意味をやはり親も理解しなければいけないという、そういうスタンスこそ校長から発信してもらいたいなど、そう私は思います。

こういうふうに変化が出てくると、本当に数字というのは過酷なもので、ないとなればいけないわけで、でもその裏に隠されたあらゆることはあるわけですね。これを書いている校長先生に聞きにいけば、いろいろな思いがあつてここに書かれたわけですよ。だけど、それを酌み上げてどうのこうのというよりも、まず校長としての姿勢、それから校長先生から先生方に発信する、その内容は何が重要であるかということをもっともっと深めるということが大事なことになるのかなと、そう思います。

○（岡本委員） いいですか。

○（足立原委員長） はい、どうぞ。岡本委員。

○（岡本委員） 携帯はたしか問題で、ところが、今の時代は携帯を抜きにしては動かない世の中になっているんですね。だから、子供たちが携帯を持つというのは、もう大前提で、あるということを踏まえて、携帯を持っているから勉強なんていう理由にする時代じゃないと思うんですよ。もう持つのは当たり前の時代で、その上に超えたところで学校はいろんなことをやらなきゃいけないんですけれども、今は、何か携帯を理由に学力が下がっているとか、勉強をしないと、そういうふう逃げちゃっているような感じがするんですよ、私個人的には。

以上です。

○（熊坂教育長） 携帯を持っている云々は、この時代ですから、当然あるんですけれども、気になったのはそういう事実じゃなくて、それを使っている時間が長いんですね。それで、学校でもこういうものはこうですということを、毎年のように何回かは、機会を捉えて子供には指導をしているんですね。PTAの会議でも、親御さんに向かってそれを発信しているわけです。ただ、それはしているんだけど、現実はこの状態がある。ということは、子供が帰ってから、そこまで教員が管理はできないですね。ですから、そのときに親御さんが、果たして子供にそういう状況があるときに、携帯の使い方をうちでどう一緒に考えているのかとか、そういうことだろうと思うんですね。一緒に考えてくださいということは、当然、全部出してあります。

「よく」が抜けているんですけれども、やっていることはやっているけれどもまだ十分でないということで、「よく」じゃなくて、やっているところへ校長さんはつけていると思うんです。ですから、やってもやってもきりが無いということはあるんですけれども、これからはやらなきゃいけないということは校長先生方、自覚をしていると思いますね。

担任が向き合う時間というのは、これは確かにそのとおりで、昔に比べれば放課後もいろんなことをやらなければいけないということで、先生方は向き合う時間が減っているわけです。

ですから、中学校給食に話が飛んじゃいますけれども、入れるときに、学校で一番抵抗があったのはそれなんですね。子供と向き合う放課後の時間が当然短くなるから、こういう形の給食じゃ困るんだよという。先生方は、ですから向き合う時間は欲しいんですね。最終的な形として、あんまり時間がかからないああいうことで導入という形になったんですが、時間が無制限にあるわけではありませんで、その中でどうしていくかということ。

それで、発信したことにこたえてくれるまでがなかなかうまくいっていないと。家庭訪問も、当然、実施はしていますけれども、やはり時間が限られていますので、1軒にいる時間が恐らく10分ぐらいしか今はとれないんだろーと思います。授業時間数もふえていますので、そういうふうに授業を打ち切ってやる時間というものの確保というのは、これはもうどこの会議へ行っても、管理職のところでも、悩みの種ですね。

ですから、ほかに何を削減したらいいかというのと、余りかかわりのない、僕なんかちょっと極論になるんですけれども、部活をぶった切れというのがあるので。これは教育課程になんですから。確かに子供にとって有効な活動なんですけれども、先生方が本務をやるときにそれをやっている。両方やったら、もう死にものぐるいですね。

○（足立原委員長） 八木委員。

○（八木委員） 本当に教育長の言う言葉に、私、同感なんですよ。

やっぱりこれはここだけの問題じゃなくて、当然、日本の全部の縮図ですね。これに対してどうこう、これはやっぱり数字だけを追うわけじゃないけれども、愛川町をやはり全国平均ぐらいのものまで持っていきたい。そのためにはいろいろ方法論があるんでしょうけれども、やっぱり今おっしゃっていたように、私はいつもそこへ行っちゃうんだけれども、教育の原点に返って、余りにも派生的なことは、勇気をもってやめるということも必要だと思う。いろいろ連合的にやる企画などは、それは見えて格好いいことですよ。確かに子供たちの情操やら何やら、いろんな教育的配慮をすることは、いいことなんだけれども、いいことで

もパイがいっぱいになればできないということは当たり前ですよ。だから、原点に戻って、学校は、じゃ、先生方がもう本当に子供たちとマンツーマンで、いわゆる昔の学校のイメージで、それを見たほうが今後の日本の、あるいは愛川の教育のためにもいいと思う。あんまりパイを広げ過ぎ、風呂敷を広げ過ぎて、何でもやってきた結果が、そういう現場にしわ寄せが来ているような感じがするんですよ。

だから、立志式もそうだし、連合音楽会とかああいうものも、結局、今、私なんかと一緒にいさせてもらって見ていると、現場に全部おんぶにだっこでやっているわけ。当然、先生方に動いてもらわなきゃできないわけですね。その分、やっぱりどうしたって本来の学業というもの、あるいは基本的な生活習慣、人間としての生き様を教えるような基本がどうしてもおろそかになってくると思います。

この辺で1回、ぱっとそういうふうなことを、愛川だけでもいいから、余計なものはやめて原点に戻るといふような一つの課題も提起してもいいような、私はそんなふうな思いも持っていますけれどもね。これは、だれを責めるわけじゃない、いろんなところで、よかれと思うことを1つずつやっていかないと、教育というのは結果が出るには25年、30年かかりますからね。どこかで歯止めをつくっていかないと、ますます先進国の中でも最低な日本になっちゃうような気がして恐れていますね。

以上でございます。

○（岡本委員） ちょっと。

○（足立原委員長） はい、どうぞ。

○（岡本委員） 私がこだわったのは、0%の「よく行った」というのが、例えば1%でもいいですから、2%でもいいですから、数字に出てればいいんですよ。0%というのは全くないことですよ。

○（熊坂教育長） 9校ですから、9人の中でということですね。

○（岡本委員） いやいや、だから私は、校長先生がこういうふうな数字を書かざるを得ない、それは何なのかということを確認しないと。本当に、僕はこの数字というのは隠された意味が非常にあるんじゃないかと。

校長さんだって、多分書きたいと思うんですよ、少しは、何%と。「よく行った」と。それを、あえて0%というのは、統計の数じゃないですよ。校長さんが答えを拒否したということと同じじゃないですか。「よく行った」というのは、僕は1%でもいい、2%でもいいから、入っていればいいんですよ。

- （高山指導室指導主事） すみません。
- （足立原委員長） はい、どうぞ。高山指導主事。
- （高山指導室指導主事） 私の説明が、本当に委員さんを惑わせてしまい、申しわけないんですけども、「よく行った」と「行った」と「行えていない」、「ほとんど行えていない」という4つに分かれていまして、「行った」と答えている学校は100%です。
- （熊坂教育長） 9校だね。
- （高山指導室指導主事） 9校なんです。そのうちの「よく行った」が3校ですから、50%です。
- （岡本委員） そうすると、0%というのは全く行ってないということですね。
- （高山指導室指導主事） 「行った」に、全部。
- （熊坂教育長） 「行った」のほうに丸がされていましたが、でも、「よく行った」というほうには……。
- （足立原委員長） 選択肢が4つなんです。
- （高山指導室指導主事） 私の説明は。
- （岡本委員） じゃ、0%は、どういう。
- （高山指導室指導主事） 「よく行った」と答えているものは、ありません。それで、「行った」は、100%なんです。
- （熊坂教育長） だから、自分としてベストだと思った人がいないということなんです。
- （足立原委員長） やっていることはやっているけれども、まだ十分ではないと、そういう意味合いですね。
- （岡本委員） あまり心配することはないということですね。
- （高山指導室指導主事） 8割方はできているんですが、こちらとしては、やっぱりここに家庭学習という、ここら辺の。
- （八木委員） だったら、この選択肢のこの設定、これ出さないほうがいい。
- （岡本委員） 出さないほうがいいと思います。誤解されますよ。
- （高山指導室指導主事） はい、ちょっと出し方がわかりづらいようで、申しわけないです。
- （岡本委員） だって、一般的に後ろに書いてある考察から読んでいくと、もう学校のほうにどんどん出してくれというような、これ切実な声がいっぱい書いてあるわけよ、課題とか。それを校長さんの資料のつくり方を、何か父兄はやっぱり疑いますよ、これ。学校現場はどうなっているんだって。

- （高山指導室指導主事） はい。
- （岡本委員） 取り越し苦労ならいいんですけれども。
- （八木委員） 単純に読めば、今、岡本委員さんの言うような感じにとられますよ、これは。
- （足立原委員長） ちょっと私のほうから。

さっき、八木委員がおっしゃいましたけれども、確かに全国平均から比べて愛川がやっぱり落ちているわけですね。そういうことを考えて委員もおっしゃったんですけれども、まさにそのとおりで、やはりこれからの将来を担う町の子供たちがこういう状況ですと、心配されますよね。

ですけれども、実際には学校現場の教員にそれを託しているわけですが、教員がやっぱりしっかりしていただくというような手だてを我々もゆっくり考えていくことも大切なんです。が、しかし、もっと親がどう考えているか。例えば、中学校から高校へ行くについても、今、割合に全部高校へ入れるわけですね、ほとんど。そこでの競争みたいなものが、少し僕は落ちているんじゃないかと。そういうガッツみたいなものが子供にない、そういうものをもっとつけていくというか、そういうこともやっぱり必要じゃないかなと思うんですよ。入れちゃうんで、割合に競争力がないみたいなのところが。やっぱりあんまり競争させるのもよくないかもしれませんけれども、学習について。しかし、そういう面がやはり欠けているんじゃないかなと思うんです。スポーツにしても、比較的最近は熱心に取り組むようなものはちょっと欠けているかなという、そういうふう思うんですね。

それは、先生が忙しいとか、さっき、教育長が部活を中止しろというような考えも持っているというお話がありましたが、体力やがんばるところが必要なんです、それも十分ご存じだと思うんですけれども、何かやっぱりそういうところまで欠けているかなと。何かいきいき宣言という、これができて配布されるんですが、この辺はじっくり現場に、家庭におろしていくというか、それが非常に大切じゃないかなと思うんで。そんなことを感じましたけれども。

- （岡本委員） 1ついいですか。
- （足立原委員長） はい、どうぞ。
- （岡本委員） それで、やっぱり家庭が問題なんだけれども、いわゆる昔言った地域の教育力、そういうものが確かにないということは、もう認識していますよ。地域の教育力というのは、やっぱり人の振り見て我が振り直せという言葉も昔からあるけれども、昔はそれですとできていったわけね。今、それがいいじゃないですか。そうすると、だれがそういう少

し問題があるような場面が出たときに、その課題とかテーマを与えてほしいという、もう学校の先生以外にないんですよ。一般の方がそんなことを言ったら怒られちゃう、おまえ、何だということになる。学校の先生だからこそ、自分たちの子供を見ていて、こうしたほうがいいよ、こうしてくださいということを強硬に言えるのは、やっぱり先生方しかないと思うし。

教育委員会がその後の訴訟とかいろんな人間的ないざこざができてきたものをフォローするようなやっぱり体制を持っていないと、これから現場に出てから、ちゃんとした正論、自分の哲学で教育できなくなっちゃう、そういう場面だと思うんですよ。

- （足立原委員長） この全国学力学習調査についてのご質問、ご意見がいっぱい出てまいりましたけれども、ほかにいかがでしょうか。

時間もたっておりますので、よろしいでしょうか。

三好委員。

- （三好委員） 最後にちょっとつけ加え。三好です。

今の話の続きで、15ページに学校の取り組みということで、「家庭と連携し、生活態度の改善、学習意欲の向上に取り組む」というところがありますけれども、本当に具体的なんですけれども、先ほど見させていただいた時に、腰パンの女の子や男の子が大勢いました。やっぱりそういうところをどうするかと、具体的に動かないと、子供も動かないし親も動かないということですよ。やはりきちんと言うべきところは言わなくちゃいけないんじゃないかと、そう思いました。

以上です。

- （足立原委員長） 教育長。

- （熊坂教育長） 今、いろいろご意見をいただきまして、課題がいっぱいあるということでございます。

学校も、教務さんもまだ1回だけの会議じゃなくて、これからもこれをもとに論議をして、どういう具体的の方策で働きかけるのがいいのか、そこが出てこないと、ただ、やろうではいけませんので、いきいき宣言もひとつあるわけですけれども、具体的な方法を考えながら、根気強くこれは取り組んでいかなければいけないというふうに思っております。

以上、感想をつけ加えました。

- （足立原委員長） それでは、質疑を終結したいと思います。

ご異議はございませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○(足立原委員長) それでは、ご異議がないものと認めます。

よって、日程第3の(2)全国学力学習状況調査については、教育長報告のとおりご承認願います。

◎日程第4

○(足立原委員長) 次に、日程第4、その他の(1)立志式についての説明をお願いいたします。

どうぞ。課長、お願いいたします。

○(長嶋生涯学習課長) 生涯学習課長です。立志式について、開催要項に基づきまして説明させていただきたいと思えます。

資料3、立志式の開催要項をごらんいただきたいと思います。

本年度立志式につきましては、9月の小中学校校長会で相談し、さらに先ほどの教育長報告の中にありましたように、9日に各中学校の担当者による会議を開催いたしまして、極力学校負担を軽減することも踏まえまして、実施要項を検討いたしました。

まず、2の開催日時であります、来年2月5日金曜日、午後1時30分の開式、午後4時20分の閉式の予定で、3の会場につきましては、例年のとおり愛川町文化会館ホールでございます。5の対象であります、町内3中学校の2年生で、本年度の対象者数は合計で430名であります。6の式典であります、第1部と第2部で構成し、校長会からのご意見などを参考に、中学生に司会進行、開式、閉式の言葉、国歌の指揮伴奏を担っていただくなど、立志式の目的などを考慮した運営に改革させていただきます。

第1部式典で、例年のとおり足立原教育委員長さんからお言葉をいただきたいと思いますので、ご予定方よろしくをお願いいたします。第2部の講演は、昨年お願いいたしました講師の大野靖之氏が、当日参加された保護者や学校関係者のアンケートで好評でありましたことから、今年度もお願いすることといたしております。

裏面、10の来賓予定者数は、記載のとおり町長を初めとして教育長まで28名を予定しております。当日、委員長さんにはお言葉を、また教育委員の皆様にはご臨席を賜りたく、ご予定方よろしくをお願いいたします。

説明は、以上であります。

○(足立原委員長) 説明ありがとうございました。

それでは、立志式について何かご質問がございましたらお願いいたします。

三好委員。

○（三好委員） 三好です。式典の運営ということの中学生在が担うということですね。今までとは違うやり方ということで、ぜひ成功させてもらいたいと思います。

○（足立原委員長） ありがとうございます。ほかに、いかがでしょうか。

それでは、立志式につきましてはご意見がございませんので、ご異議ないものと認めます。
日程第4の（1）立志式については、ご承認を願います。

次に、（2）ふるさとまつり（文化展・文化芸能発表会）についての説明をお願いいたします。

○（大八木スポーツ・文化振興課長） それでは、資料4をご覧ください。

第25回愛川町ふるさとまつりが、10月31日土曜日から11月1日の2日間、開催されます。主催はふるさとまつり実行委員会でございます。特に私のほうでここでご報告させていただくのは、例年、文化会館で文化協会が主催する文化作品展や文化芸能発表会、こちらに書いてありますように、文化作品展が31日から1日、この2日間、文化会館の1階から3階までを使ってございます。展示内容は、資料にありますので、ごらんいただきたいと思います。また、文化芸能発表会が11月1日、文化会館のホールを利用いたしまして、行われます。

以上でございます。

○（足立原委員長） ありがとうございます。

ただいまの説明に対しまして、何かご質問はございますでしょうか。

よろしいですか。それでは、質疑がございませんので、質疑を終結いたします。

ご異議ありませんね。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○（足立原委員長） それで、ご異議ないものと認めます。

よって、日程第4の（2）ふるさとまつり（文化展・文化芸能発表会）については、ご承認願います。

○（大八木スポーツ・文化振興課長） 委員長、すいません。

○（足立原委員長） ございますか。課長。

○（大八木スポーツ・文化振興課長） 申し訳ございません。スポーツ・文化振興課長でございます。

○（足立原委員長） 追加です。

○（大八木スポーツ・文化振興課長） 資料は今回用意してございませんけれども、来月の11月21日土曜日でございますけれども、第5回の愛川町合唱祭が開催されるということで、委員の皆様にはご案内状がお手元に届いているかと思えます。今回は団体が7団体、実行委員会形式で行っていきまして、三好委員が実行委員長ということで、5回目になります。今回は地域グループでは4団体が参加で、学校関係では愛川高校と半原小学校、そして、今年は田代小学校が太鼓の演奏をしていただけるということで、中学校の参加はないんですけれども、小・高ということで、一環の形での開催としてできますので、ぜひごらんいただければ幸いです。

以上でございます。

○（三好委員） よろしくお願ひします。

○（足立原委員長） 11月21日の合唱祭についての報告、説明がございました。よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして10月定例会の議事日程がすべて終了いたしましたので閉会したいと思います。異議ありませんか。

（「異議ありません」と呼ぶ者あり）

○（足立原委員長） それでは、ご異議ないものと認めます。

よって、10月定例会を閉会いたします。

長い時間、大変ありがとうございました。ご苦労さまでした。